

3 いよかん

(1) 生産目標

品種・系統	10a当たり収量	精果率	階級割合	糖度
宮内伊予柑	連年3.3t以上	90%以上	2L、L90%以上	11度以上

(2) 経営指標及び労働時間

経営指標(10a 当たり)

① 出荷量(kg)	3,000
② 販売単価(円) ※1	172
③ 粗収益(円)	516,000

※1 令和2年～令和5年の平均単価

ア 販売価格の推移

(単位: kg当たり円)

年次	H26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5
単価	126	135	147	186	202	180	157	148	161	222

(H30 まで: 全農山口扱い、R1～: J A山口県扱い)

イ 経営費の内訳(単位:円)

費用	金額	備考
肥料費	106,555	
農業薬剤費	36,290	
※ その他経費は、販売状況等によって変動するため試算していない		

ウ 投下労働時間(10a 当たり時間)

(ア) 月別労働時間

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
時間	8.0	10.0	37.5	4.0	5.25	5.5	15.25	15.5	0.25	2.0	3.25	28.0	134.5

(イ) 作業別労働時間

整枝 せん定	施肥	中耕 除草	防除	摘果	土壌 改良	収穫	貯蔵	選別 出荷	園内 管理	計
15.0	7.5	15.0	14.0	21.0	2.0	24.0	21.0	12.0	18.0	134.5

(3) 重点推進事項

事 項	推 進 内 容														
1 土壌改良	うんしゅうみかんの土壌改良目標に準じて、有機物の投入、下層土の改良、適正な肥培管理により地力を増強し、樹勢の維持・強化に努める。														
2 樹冠占有面積率の向上と整枝 ・せん定	1 弱毒ウイルス接種苗は樹勢が良いことから、間引き主体のせん定とし、せん定程度は、除葉率10%以内にする。 2 重なり枝等不必要な枝の整理を行い、主枝・亜主枝・側枝の構成を図り、開心自然形に整枝する。 3 欠株樹等欠損が生じた場合は補植を行い、樹冠占有面積率の向上に努める。														
3 適正摘果の徹底	1 摘果は早期に行う。第1回6月下旬から7月上旬（粗摘果、全摘果量の70%）、第2回7月下旬（仕上げ摘果25%）、第3回9月上旬（樹上選果5%）。 2 葉果比は80～100とする。結果2～3年間はやや多めの100～120とし、樹勢維持を図る。 3 結果1～2年間は、下層部結果を主体に樹勢維持を図り、3年以降も主枝・亜主枝先端は全摘果とする。														
4 適期採収と貯蔵管理	12月中旬～下旬、2回に分割採集する。1回目は外成り果を主体に8分着色以上、2回目は内成、下成り果を採収し、区分貯蔵する。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="424 1200 568 1323">品種・系統名</th> <th data-bbox="568 1200 711 1323">採収時期及び採収方法</th> <th data-bbox="711 1200 855 1323">出荷時期</th> <th data-bbox="855 1200 999 1323">入庫量(3.3㎡)</th> <th data-bbox="999 1200 1142 1323">予措条件</th> <th data-bbox="1142 1200 1286 1323">貯蔵方法</th> <th data-bbox="1286 1200 1422 1323">換気・その他管理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="424 1323 568 1671">宮内伊予柑</td> <td data-bbox="568 1323 711 1671">12月中旬～下旬 8部着色以上 2回に区分採収</td> <td data-bbox="711 1323 855 1671">2月中旬～3月下旬(北浦3月中旬～4月上旬)</td> <td data-bbox="855 1323 999 1671">800～1000kg (果実の重なり2個)</td> <td data-bbox="999 1323 1142 1671">温度12～13℃ 湿度80～85% 期間 20日前後</td> <td data-bbox="1142 1323 1286 1671">温度 6～8℃ 湿度 85%</td> <td data-bbox="1286 1323 1422 1671">予措時の喚起は昼間暖かいときに行う。貯蔵中の喚起は朝夕に行う。</td> </tr> </tbody> </table>	品種・系統名	採収時期及び採収方法	出荷時期	入庫量(3.3㎡)	予措条件	貯蔵方法	換気・その他管理	宮内伊予柑	12月中旬～下旬 8部着色以上 2回に区分採収	2月中旬～3月下旬(北浦3月中旬～4月上旬)	800～1000kg (果実の重なり2個)	温度12～13℃ 湿度80～85% 期間 20日前後	温度 6～8℃ 湿度 85%	予措時の喚起は昼間暖かいときに行う。貯蔵中の喚起は朝夕に行う。
品種・系統名	採収時期及び採収方法	出荷時期	入庫量(3.3㎡)	予措条件	貯蔵方法	換気・その他管理									
宮内伊予柑	12月中旬～下旬 8部着色以上 2回に区分採収	2月中旬～3月下旬(北浦3月中旬～4月上旬)	800～1000kg (果実の重なり2個)	温度12～13℃ 湿度80～85% 期間 20日前後	温度 6～8℃ 湿度 85%	予措時の喚起は昼間暖かいときに行う。貯蔵中の喚起は朝夕に行う。									
5 樹勢強化対策	うんしゅうみかん重点推進事項を参照。														
6 果皮障害	低温障害の多発する園では、11月以降に北西風を防ぐことで発生を軽減できるので、防風垣・防風ネットを設置する。														

(4) いよかん作業

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
1	上 ～ 下	花芽分化開始	寒害対策 貯蔵管理	防風ネットの補修、設置。寒風を受けやすい所では、寒冷紗その他で被覆を行う。敷草による土壌水分の保持、冬期かん水などにつとめ、寒風害に備える。 貯蔵果の点検、庫内の温度及び湿度（6～8℃、85%）の管理。
2	上 中 ～ 下		石灰及び苦土の施用 深耕と有機物の施用 貯蔵管理	苦土欠乏樹の多い園では、苦土石灰(10a当たり100～150kg)施用、また水田転換園等の中性付近の土壌の園では、水酸化マグネシウム、炭酸マグネシウム(10a当たり40～60kg)を施用する。過度の中耕は断根量が多くなり、樹勢を低下させるので注意する。酸性の園では石灰と苦土の比率を考慮して施用する。 この時期から3月にかけて中耕を行う（排水に注意する）。中耕によって中層の根量を増やすことで樹勢強化と連年結果につながる。 腐敗果の点検を十分行う。朝夕に換気を行って6～8℃に保つ。
3	上 下	花芽分化終了	整枝せん定 春肥の施用 苗木の植え付け 欠株の補植	弱毒ウイルス接種苗は樹勢が良いことから、間引き主体のせん定とする。 樹勢や前年の結果状態、土壌条件などを考慮して施用する（別頁施用基準参照）。施用後は必ず中排する。 根が乾燥しないように十分にかん水し、黒ポリや敷きわらを被覆し、植付け後の乾燥を防ぐ。 補植を行い樹冠占有率を高める。
4	中	発芽開始	防風樹の刈り込み 花肥の施用 中耕・除草	密閉度50%程度に刈り込む。 弱樹勢樹や着花過多樹ではN成分で10a当たり4kg施用する。 軽く中耕を行い地温上昇をはかる。
5	中	開花 生理落花（果）開始 根の伸長開始	土壌侵蝕の防止	梅雨期に入る前に畦畔及び排水溝の整備を行うと共に、敷草や草生によって土壌流亡を防止する。

6 月	上 下	緑化完了	夏肥の施用 あから摘果	樹勢や結果状態、土壌条件を考慮して施肥基準を参考に施用する。 若木、更新初期は樹冠上部の摘果を強めにして、樹勢維持に努める。葉果比80~100を目標とし、全摘果量の70%を実施する。有葉果を中心に残す。
7 月	上 下	生理落果終了 夏芽伸長開始 果実肥大期	除草 仕上げ摘果	繁茂した雑草は、梅雨明け後早目に除草する。除草剤は別頁参照のこと。 大玉果、無傷果生産を目標に仕上げ摘果を実施する。裾成果や内成果及び粗皮果を摘果する。
8 月	上	秋芽伸長開始	かん水の実施 台風対策	無降雨日数が10日を目安にかん水を行う。 防風ネット等の補修、補強をする。排水、集水路の整備と塩害にそなえて散水の準備をする。
9 月	上 中	果実発育最盛期 根の伸長期	初秋肥の施用 樹上選果	結果状態を考慮して、施肥基準を参照に施用する。 この時期から収穫前まで継続して実施する。
10 月	上 中		防風樹の刈り込み 夏秋梢の処理	日照条件をよくするために密閉度70%程度に刈り込む。 中旬から実施できるが、高接樹では樹冠拡大に利用。充実不良枝のみ除去する。
11 月	上 中 下	着色開始	秋肥の施用 へた落ち防止剤の散布	結果量の多い樹、樹勢の弱い樹ではやや早目に、結果量の少ない樹でも中旬までに施用する。 施用量は、結果量を考慮して、施肥基準を参考にを行う。 収穫開始予定日の10~20日前までに、へた落ち防止剤を散布する。
12 月 ~ 下	上 中 下		採収予措・貯蔵	中旬~下旬にかけて、紅の濃い外成りの8分着色果より始める。内成、下枝などの着色遅れ果は着色が進んで12月末までには採収を終わる。予措程度は、5~6%とする（重点推進事項の表を参照のこと）。

(5) 施肥基準

いよかん(成木)10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合(%)			成分量(kg)			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
春 肥(3月下旬)	30	30	20	9.0	4.5	5.0	(1)成木園10a当たり収量3,000kgを目標とする。 (2)弱勢樹や着果過多の樹では、花肥を施用する。 花肥は硫安で10a当たり20kgまたは尿素10kgとする。
花 肥(4月中下旬)		—	—	(4.0)	—	—	
夏 肥(6月中旬)	30	20	30	9.0	3.0	7.5	
初秋肥(9月上旬)	20	30	30	6.0	4.5	7.5	
秋 肥(11月上旬)	20	20	20	6.0	3.0	5.0	
計	100	100	100	30.0 (34)	15.0	25.0	

(6)いよかん品種特性表

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期及び可食期
宮内伊予柑	愛媛県松山市平田町 宮内義正氏 伊予柑の枝変わりとして昭和30年発見。 昭和41年 名称登録	普通伊予柑よりやや大きく果形やや扁平。 果皮がうすく、多汁、減酸が早い。	樹勢は弱い。 節間はやや短く、枝の屈曲がやや多い。	普通伊予柑に比べて、やや耐寒性が弱い。冷気の停滞する場所や風当たりの強い所はさける。 果実肥大期にじょうのうの縫合部が裂開しやすいので、急激な土壌水分の変動を避ける。	収穫期 12月中旬～12月下旬 可食期 2月中旬～3月下旬
勝山伊予柑	愛媛県松山市福角町 樋口光雄氏 宮内伊予柑の枝変わり 昭和62年11月 品種登録	果実の大きさは350g程度、扁平で濃橙、果皮はやや滑らかで中厚。 含核は少なし。着色、減酸は早い。	樹勢はやや強で樹姿は開張性である。 隔年結果性は中、耐寒性は中程度である。	熟期は宮内伊予柑より7～10日程度早い。 早出し用(12月～1月)に適する。	収穫期 12月上旬～12月中旬 可食期 1月下旬～3月上旬
普通伊予柑	山口県萩市川島 中村正路氏 明治19年発見、偶発実生 明治22年松山市、三好保徳氏導入。 昭和5年伊予柑と改称	果実は250g程度、球形に近い。果面はやや粗、果皮は厚くもろい。 じょうのう膜は厚く硬い。多汁、香りあり。	樹勢は強く、比較的小型、節間は短く枝葉は密生する。葉は直立性で先はさじ状。	着花は多いが結実は不安定である。	収穫期 12月下旬 可食期 3月上旬～4月上旬